

基礎ゼミナールの授業評価について

基礎ゼミナール部会長
都市環境学部准教授

上野 敦

【はじめに】

基礎ゼミナールは、一連の、討論、レポート作成、口頭発表、調査などを行うことで、学生が主体的に「考える・調べる・発表（表現）する」ことを実践し、課題発見、問題解決能力の養成を目的としたものです。受講対象は、1年生であり、必修科目となっています。

今年度は、受講生1,678人に対して、81クラスが開講されています。

ここでは、FD委員会、教務委員会・基礎教育部会が平成23年度に実施した、基礎ゼミナールの授業評価アンケートの結果について、概略を報告します。

【調査対象と回収率】

調査対象は、受講生および担当教員です。調査は、アンケートの形式で実施されています。受講生1,678人中1,362人から回答を得ており、回収率は81%となっています。また、担当教員については、81クラス中74クラスから回答を得ており、回収率は91%となっています。

以下の検討においては、学生による評価をSE (Student's Evaluation)、教員による評価をTE (Teacher's Evaluation) と呼びます。

【質問項目】

質問内容（SEでの質問）は、表-1のとおりです。問1から問8までは、他の授業と共通の質問であり、問9から問13までが基礎ゼミナール固有の個別質問事項となっています。基本的に、回答は、1から5の5段階となっており、「強くそう思う」が5、「そう思う」が4、「どちらとも言えない」が3、「そう思わない」が2、「全くそう思わない」が1となります。（問5、問12および問13は別形式の回答（問12と13については後述します。）

基礎ゼミナールの個別質問事項について、問の設定の意図を以下に説明します。

問9では、SEの場合とTEの場合で質問が異なりますが、ゼミナールの主題が、学生の関心と合っているか否か、または、学生の興味を引き出すような教え方ができたかというような、ゼミナール主題に関する質問となっています。この結果によっては、問1、問2、問8などの回答が影響を受ける可能性を持っています。また、後述の問13の結果によって、この問9の回答が影響を受ける可能性があります。

問10と問11は、基礎ゼミナールの目的についての達成度に関する質問となっています。

問12は、ゼミナールの運営（ゼミ中の時間配分）に

表-1 授業評価（SE）の質問

質問事項	
共通	問1 私はこの授業に意欲的・積極的に取り組んだ。
	問2 授業の目的を意識しながら学習することができた。
	問3 教員の説明はわかりやすかった。
	問4 教員は学生の質問・意見に対して適切に対応していた。
	問5 授業以外で一週間に平均どのくらい、この授業に関連した学習をしましたか？
	問6 成績評価方法について十分な説明があった。
	問7 シラバスに目標として掲げられている知識や能力を獲得できた。
	問8 私はこの授業を受講して満足した。
個別	問9 この授業を受けた結果、授業テーマに対する関心が高まった。
	問10 問題発見と、その解決に向けた取り組み姿勢の重要性を確認した。
	問11 議論や発表などの自己表現能力を向上させることができた。
	問12 受講生による議論・調査・発表の部分に対し、教員によるテーマの解説部分の時間配分はhowでしたか？
	問13 この基礎ゼミの授業は第何希望でしたか？

についての質問となっています。

問13は、前年度の課題点を考慮して、今年度、よりわかりやすい形で設問に組み込んだものです。内容は、受講生が履修した基礎ゼミナールの希望順位に関するものであり、主に積極性を問うている質問（問1、問9など）がその影響を受ける可能性を持っています。前年度は、正式な設問の形式ではなく、自由記述欄に同様な質問を追加していましたが、認知度（そこに質問があることの認知の程度）が低そうであったため、改善したものとなっています。

【共通質問項目の結果】

問1から問8の共通質問事項について、SEでの評価の高かったものを抽出してみます。最も評価が高かったのは、問4の教員の適切な対応についての質問です。評価の平均値として3.99の高評価となっています。担当教員の皆様の努力の結果と考えられます。次いで、問1の学生本人の積極性についての質問が、平均3.93、問8の満足度に関する質問が、平均3.91の高い評価となっています。

逆に、SEが最も低かったものは、問6の成績評価方法の説明に関する質問です。平均で3.55の評価となっていました。担当教員は、ゼミの内容についての説明では高い評価を得ていますので、成績評価の方法についての説明と相互理解を行うことが課題となるかもしれません。

基礎ゼミナールのSEは、例年、比較的高いものとなっています。今年度の結果を経年で比較すると、ほぼ昨年度と同等もしくは若干低い評価となっていました。昨年度までは、徐々に評価が高くなってきていたこと、最も評価の低かったものでも、上述のとおり、平均で3.55であることを考えますと、高い水準で安定的な状態になってきているものと考えられます。

【個別質問事項の結果】

問9から問13までの、基礎ゼミナール固有の質問について、評価の高かったものを抽出してみます。

問9の、基礎ゼミナール終了後にテーマへの関心が高まったかという質問に対する回答が、最も評価が高く、平均で3.89となっています。このことは、大変重要であり、学生参加（主体）型の授業の効果、そして、担当教員の創意工夫の結果と考えられます。

問13の選択順位に関する質問の回答によれば、第一希望（1回目抽選の第一希望）の学生は、54%であり、半分弱が、第一希望でないゼミに配置されていることとなります。にもかかわらず、問1の積極性に関する

質問で平均3.93、問9のゼミ後の興味についての質問で平均3.89の評価となっていることに着目すべきでしょう。

個別質問事項について、その評価（SE）を経年で比較すると、評価は徐々に高くなってきています。元々、基礎ゼミナールの評価は高いので、伸びは少なくなってくるのは当然ですが、年を重ねるごとに、少しずつ改善され、その結果、SEが高くなってきているものと考えられます。授業評価アンケートは、アンケートするだけでは意味を持ちませんが、課題点を抽出し、次に活かしてきた証であると思われます。

一方で、個別質問事項の中で比較的评价が低かったのは、問11の目標達成度についての質問であり、平均で3.77の評価となっています。3.77は高い評価ではありますが、相対的には低いという意味です。また、共通質問事項の問7は、これに関連する質問であり、シラバス掲載の目標に対する達成度の質問です。この質問に対する回答も、相対的に低く、平均3.59となっています。ゼミナールの中身の面では、もう少し、技術面でのフォローに関する工夫が要るのかもしれませんが。

【おわりに】

これまで示してきたように、基礎ゼミナールのSEは、全体的に高いものとなっています。全体として高い中ではあるのですが、相対的に低くなっているのは、

- ・成績評価の方法の説明が十分なされない
- ・目標としている技術（スキル）の修得が不十分

というようなことです。

この面での改善を行うのが良いと思われます。